

富士山ハザードマップ作成の目的

■富士山の地下約15kmを震源とする低周波地震が、平成12年10月～12月に約500回、平成13年4月～5月に約300回と非常に多く観測されました。この低周波地震はマグマの活動と関連していると考えられており、あらためて富士山が活火山であることが認識されました。

■平成14年から15年にかけて観測された低周波地震は、月平均15回と一時期に比較すると回数は減り、現時点（平成16年3月）においては富士山が噴火するような兆候はありません。

■しかし、万が一噴火しそうになったり噴火した時に備えた防災対策は、計画しておく必要があります。そのためにこのハザードマップは、想定される火山活動によって、どの範囲までどのような影響がでるのかを市民に知っていただき、皆さんが自らの安全を確保するためにはどう対処すればよいのかを認識していただく目的で作成しました。

■なお、このハザードマップは過去の富士山の噴火に関する調査をもとに作成されたため、実際に噴火した場合と内容が異なる部分が出てくる場合もあります。

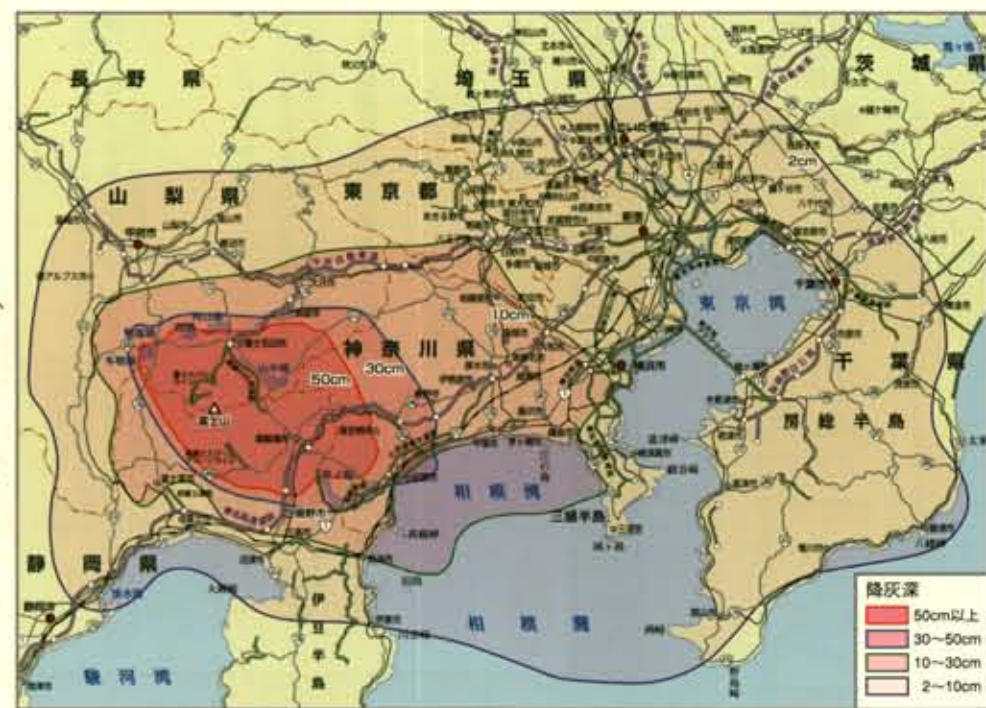
火山灰(かざんばい)の到達範囲

火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合、広い地域に火山灰が降ります

季節によって風向きが変わるため、火山灰の到達範囲は変わります。この図はすべての季節を重ねて描いているため、実際の降灰範囲は異なる場合があります。

降灰があったら…

- 灰を吸わないようにするためマスクを着用しましょう。
- 富士山の近くでは火山灰だけでなく小石が降ってくるので、やむを得ず外に出るときはヘルメットや防災ずきんをかぶりましょう。
- 家は窓を開けて建物内を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップしやすくなります。また、雨が降っているとワイパーが使用しづらく危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。



噴火しそうなる時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。(噴火した場合に、下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。)

- 火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で流れる範囲
- 火口から噴出した石がたたくさ落ちてくる範囲（この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。)
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲（3時間程度を想定）

溶岩流 (ようがんりゅう)

溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲（3時間程度を想定）

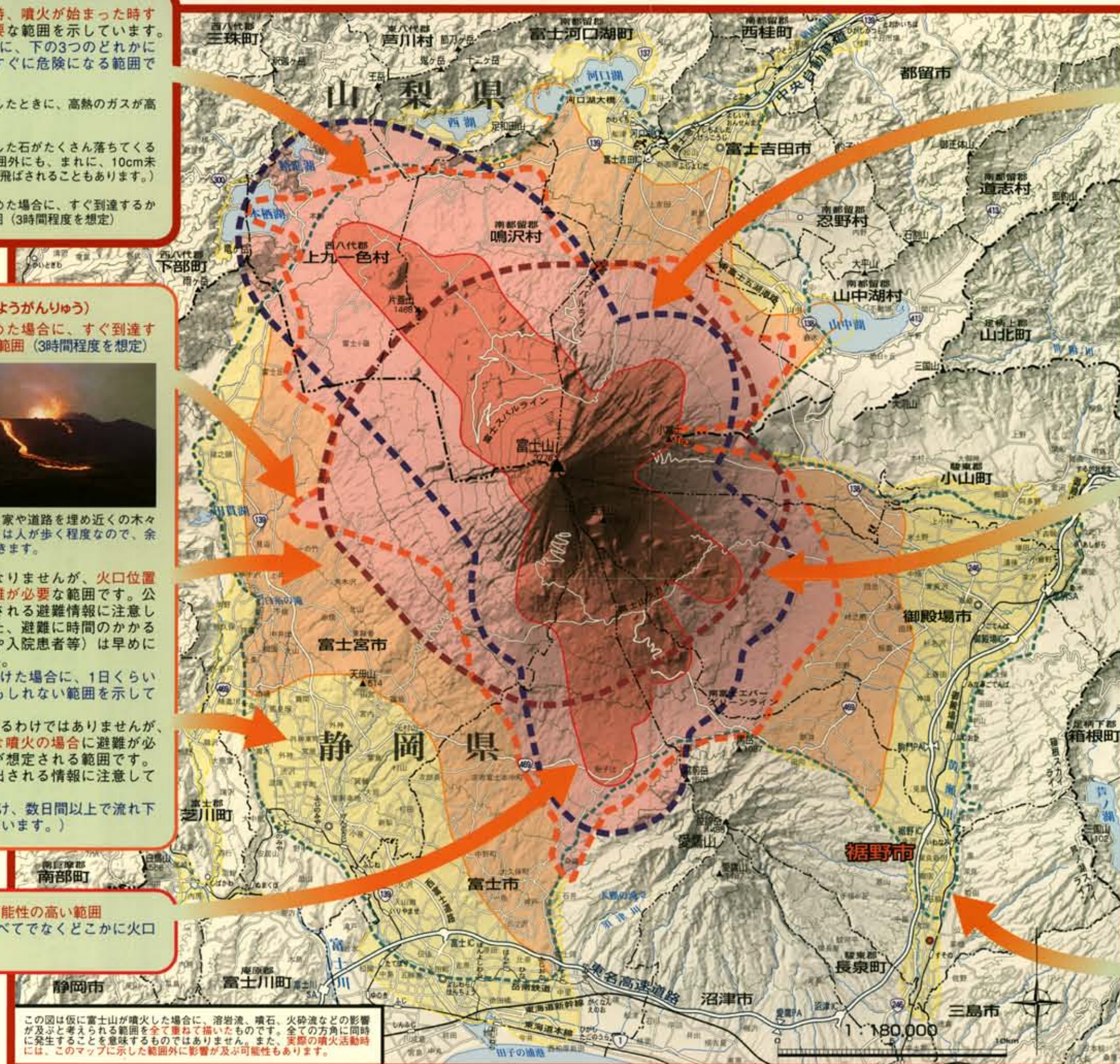


高熱の溶岩が斜面を流れ、家や道路を埋め尽くすの恐れがあります。流れの速さは人が歩く程度なので、余裕を持って逃げることができます。

● すぐ危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間のかかる人（お年寄りや入院患者等）は早めに避難して下さい。(溶岩が流れ続けた場合に、1日くらいで到達するかもしれない範囲を示しています。)

● すぐに危険になるわけではありませんが、たいへん大きな噴火の場合に避難が必要になることが想定される範囲です。公的機関から出される情報に注意して下さい。(溶岩が流れ続け、数日間以上で流れ下る範囲を示しています。)

● 火口ができる可能性の高い範囲（この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。)



この図は、平成16年3月時点において、富士山ハザードマップ検討委員会より報告された結果をもとに作成されたものです。

どのような現象が起こる!? どのような注意が必要!?

洪水氾らん(こうずいはらん)

川の上流に火山灰がたまり、下流に流れ出てくると、洪水が起きやすくなります。川沿いでは注意が必要です。

水蒸気爆発(すいじょうきばくはつ)

溶岩流が湿地帯や湖に流入すると、小規模な水蒸気爆発が起こることがあります。この場合、爆発の発生場所近くでは噴石や爆風の危険があるので注意が必要です。

土石流(どせきりゅう)

山の斜面に火山灰が厚く積もると、雨で流れて土石流となります。特に厚さ10cm以上積もる地域では、何回も土石流が起こることがあります。人が走るより速く流れるので、降雨時は注意が必要です。

岩屑なだれ(がんせつなだれ)

山の一部が崩れて大きななだれとなり、雪崩のように高速で流れてきます。約2500年前に富士山東側の御殿場方面に崩れたことと、さらに昔にも複数回あった可能性があるので、均整のとれたダイナミックな雄姿ゆえに多くの観光客や登山者が訪れます。

火山ガス(かざんがす)

火山ガスはマグマに溶け込んでいたガス成分が気体となって噴き出すもので、二酸化炭素などの有毒成分を含むことがあります。火口などのガスが出ている周辺や窪地などのガスがたまりやすいと思われる場所には近づかないなどの警戒が必要です。

避難する場合は以下に注意しましょう

■忘れてませんか?

- 1 戸締り、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
- 2 貴重品は忘れずに持参しましょう。
- 3 非常持ち出し品を確認しましょう。
- 4 外出中の家族のために、避難先を書いたメモを残しましょう。

■避難する場合は・・・

- 1 市役所や消防団などの指示に従い、落ちついて行動しましょう。
- 2 お年寄り、赤ちゃんのいる人、体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。
- 3 小石が降ってくるがあるのでヘルメットなどで頭を守りましょう。また灰を吸い込まないようにマスクやゴーグルをつけましょう。
- 4 くぼ地には有毒ガスがたまりやすいので、近づかないようにしましょう。

■避難場所では・・・

- 1 人数を確認し、逃げ遅れた人がいないか確認しましょう。
- 2 お互いに助け合いましょう。
- 3 ラジオやテレビ、防災無線などの情報に注意しましょう。



富士山の恩恵

■富士山の美しい景色

標高3,776m、静岡県と山梨県にまたがり、そびえたつ雲峰・富士山。山頂付近の傾斜は30～35度という急勾配をもち、山麓に広がるにつれて、ゆるやかな傾斜を描く「裾野」という名の街は、文字通り、富士が生み育てた街と言えるのではないのでしょうか。裾野市から見える富士山が、日本でも、世界でいちばん美しいという人も多く、宝永火口を正面に、ほぼ左右対称の稜線をまとい、均整のとれたダイナミックな雄姿ゆえに多くの観光客や登山者が訪れます。

■富士山資料館

富士山の生い立ち、歴史、動植物、それにまつわる人々の生活など富士山に関する資料が豊富に見学でき、特別展も時節にあった展覧会が開かれます。併設されている郷土資料館には、農具や生活用具が展示されています。



■五龍の滝、景ヶ島渓谷・屏風岩

裾野市を流れる川には、むき出しのよう岩石が多く見られ、五龍の滝、景ヶ島渓谷、屏風岩と雲峰富士が造り出した一大芸術が堪能できます。長さ63mの吊り橋から眺める雄大な「五龍の滝」は県の天然記念物に指定されています。景ヶ島渓谷は集塊岩や溶岩流が侵食された奇岩に富む渓谷で、下流には高さ10m幅70mにわたる柱状節理が美しい屏風岩があり、独特の景色をみせています。

裾野市富士山火山防災マップ

凡 例

- 火口ができる可能性の高い範囲
(この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。)
- 噴火しそうな時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。(噴火した場合に、下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。)
- 火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲
- 火口から噴出した石がたくさん落ちてくる範囲(この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。)
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲
(3時間程度を想定)
- すぐ危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間のかかる人(お年寄りや入院患者等)は早めに避難して下さい。(溶岩が流れ続けた場合に、1日くらいで到達するかもしれない範囲を示しています。)
- 雪が積もっている時に噴火しそうな場合に、沢や川には近寄らないようにする必要があります。また、発生した泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。(積もった雪が火砕流により溶かされた場合、発生した泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。)
- すぐに危険になるわけではありませんが、たいへん大きな噴火の場合に避難が必要になることが想定される範囲です。公的機関から出される情報に注意して下さい。(溶岩が流れ続け、数日間以上で流れ下る範囲を示しています。)
- 火山灰が厚く積もっている場合には、大雨警報が出た時に避難する必要があります。火山灰が厚く(10cm以上)積もっている地域では少しの雨でも土流が発生しやすくなりますので注意しましょう。〔「土石流災害危険渓流および土流危険区域調査要領(案)」に基づいて、抽出した渓流及び氾濫範囲を示しています。〕
- 避難場所
- 市役所・支所
- 消防署・警察署
- 救護病院
- 鉄道
- 有料道路
- 国道
- 主要道路

防災機関の連絡先

富士山からの水蒸気や火山灰の噴出、地鳴り・鳴動などの異常現象が見つかったら、すぐ下記に連絡して下さい。

名 称	電話番号
裾野市役所(代表)	055-992-1111
裾野市役所 防災交通室	055-995-1817
裾野市交番	055-992-0155
裾野市消防署	055-995-0119

本ハザードマップに関する問い合わせ先
裾野市役所 防災交通室 電話055-995-1817

気象庁が発表する火山情報

- 緊急火山情報**…生命、身体に関わる火山活動が発生した場合、あるいはその恐れがある場合に随時発表されます。市町村の指示に従い速やかに避難範囲からの避難が必要です。
- 臨時火山情報**…火山活動に異常が発生し、注意が必要ときに随時発表されます。登山は自粛もしくは中止する必要があります。また噴火の可能性が高まったとされる情報が発表された場合は観光の取りやめや一部の方は避難が必要となります。
- 火山観測情報**…火山活動に変化があった場合、あるいは緊急火山情報、臨時火山情報を補う場合などに発表されます。特段の対応は要りませんが、火山活動の状況を理解し、その後発表される火山情報に注意する必要があります。

噴火しそうな時、噴火が始まった時には？

気象庁が発表する火山情報に注意しましょう。

デマやうわさに惑わされないようにしましょう。

テレビやラジオのニュース、新聞、市の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。

避難勧告などの指示があった場合には従いましょう。

1 : 60,000

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承諾を得て、同院発行の20万分の1地形図及び基礎地図50mメッシュ(標高)を使用しているものである。(承認番号 平17給使 第750号)なお、平成16年3月時点において、富士山ハザードマップ検討委員会より報告された結果をもとに作成されたものである。